「デス・ゾーン」栗城史多（くりきのぶかず）のエベレスト劇場（河野啓 著）

栗城史多を知ったのは確かＮＨＫの番組でした。ヘルメットに小型カメラを付けて回りの山岳風景や自撮りをし、「インターネット中継でエベレスト登頂を生中継したい。」などと語りながら登る人でした。番組の場面はエベレストの 6000m付近を歩いていたのでしょうか。「息が苦しい」と言いながら一人で登っていたのを覚えています。

著者がこの本を著したのは栗城が亡くなった事がきっかけだそうです。北海道ＴＶのデイレクターで、2008 年~2009 年の頃、彼に取材して番組を制作していた関係だそうです。しかし 10 年間、彼とは連絡も取っていなかったので関係者へのインタビューや資料探しに苦労したようです。

エベレストに登るには資金が要ります。彼の場合１回で約 5000 万円かかったそうです。自宅の北海道以外に東京銀座に自分の事務所を持っていたのでその維持費もかさんだようです。彼は七大陸最高峰「単独無酸素登頂」をめざし講演会を行い、多くの企業を回り資金を集め、実現しようとしていたそうです。でも、一登山家がそんなに資金を集めて山に登ることに、どんな意味があるのか私には分かりません。

ビンソンマシフには２回目で登頂したそうです。チョオーユにも登頂したそうです。
六大陸最高峰までは何とか登ったのですがエベレストだけがうまくいかなかったようです。

植村直己も北極圏を犬橇単独行していたとき犬が死ぬと、すぐに電通の支援で飛行機（ツインオッター機）に新しい犬を運んでもらい、食糧の補給もしてもらっていました。三浦雄一郎が 2019 年に 80 歳でアコンカグアに登ろうとしたときも１億 5000 万円かかったそうです。なので、極地探検や極地登山をするときは資金が必要になるのです。

エベレストには 2009 年にメスナールートから登頂を試みますが、失敗します。2015 年 5 回目失敗。2016 年 6 回目失敗。2017 年 7 回目失敗。このとき両手の指 9 本を凍傷で切断しました。2018 年 5 月 21 日。エベレスト南壁 7000m付近で滑落死しました。35 歳でした。エベレストに８回登るだけでも 4 億円かかります。

著者は「彼は登山が目的でない。彼の目的は世界最高峰の部隊からエンターテイメントを発信することなのだ。」「彼は、技術は無い。体力も並。パフォーマンス過ぎる。起業家だ。」と言います。

山に登っていないときは日本各地で講演会を行いました。そのとき使う決めの言葉は「山と一対一で向き合いたいから、単独で登る」「単独無酸素登頂」だそうです。スポンサーを回り、資金を稼ぐのにも忙しかったそうです。ネズミ構で有名なアムウェイの広告塔になることも厭わなかったようです。億を超える資金を提供する天然水の会社の社長と仲よくなり潤沢な資金を手に入れたそうです。Yahoo の協力も得られたそうです。

2017 年頃は登山ガイドの花谷泰広（ピオレドール賞受賞者）に連れてもらい一緒に日本の山をトレーニングしたそうです。栗城が凍傷を負った一ヶ月後に、タレントのイモトアヤコがマッターホルンに登頂すると、エンターテイナーとしての自負を奪われていったそうです。

だんだんと「多くの人が応援してくれるのに、結果が出ない」と非難されるようになりました。困難な登山に挑戦しようとするのに全くトレーニングをしようとしない姿勢を著者は容赦なく暴き出しま

す。「占い師に登頂のタイミングまで占ってもらった。」などと知ると自信がないんだろうなと思ったそうです。

著者は、彼が亡くなった後に「栗城はＢＣで、酸素ボンベを使用したのではないか」という話を聞き、調べ始めます。カトマンズに連絡を取り、栗城に同行しサポートしたシェルパ、マン・マハツール・グルンから「酸素ボンベは私が用意した。彼は酸素を吸った。」と知らされました。またシェルパが撮影の画像に入ってしまうと単独登山でないと分かってしまうので「離れて」「隠れて」とシェルパを近づけさせなかったそうです。単独登山では無かったのです。ベースキャンプまでシェルパに荷物を運ばせて、テント場の整地をさせ、テントを張る所だけ撮影のため自分でやったこともばれてしまいました。

厳密に言えば、ＢＣに酸素ボンベを持ち込むことも許されないと思います。メスナーはそういう登山を遂行していました。メスナーのＢＣには酸素ボンベは勿論、シェルパさえ存在しませんでした。

栗城が「山と一対一で向き合いたいから、単独で登る」「単独無酸素登頂をする」と大見得を切り、嘘をついて資金集めをした理由は分かりません。

人々に夢と希望を与え「嘘でも良いから欺されてみたかった。」と思う栗城ファンもいると思います。山登りをエンターテイメント化したという意味では一つの功績なのかもしれませんが、私としては嘘をついてまで資金集めをして欲しくなかったと思います。この本は栗城の裏の姿を暴き出した本として、記憶に残るでしょう。　（フカ）

2020 年 10 月　「デス・ゾーン」　栗城史多（くりきのぶかず）のエベレスト劇場

河野　啓　著　１８００円